

子供は戸外で活動して、いろいろなことを学びます。家にいるときは家庭の父母が指導者の位置に座りますが、近隣での子供の生活・活動を見守るのは、それぞれの大人たちです。

最近「他人の子供を叱りましょう」などと言う言葉で近隣の子供への配慮の必要性が言われています。また、「ひとと声運動」などと言って子供達に大人が「もう暗くなつたから早く帰らなさい」とか「こ

こは危ないよ」とかいろいろ声をかける運動も行われています。青少年相談員や指導員等の大人達だけが近隣社会での子供の指導をするのではなく、そこに生活するすべての大人達が指導の役割を担うことが必要です。

この役割を日常スムーズに果たすためには常日頃から、やはり大人達が顔見知りになっていたり、共同の活動をしたりする方法が容易ですし、また必要なことで

しょう。

例えば、二、三の近隣の家庭が一緒になって、ハイキングだとか近くの海岸や遊園地などに行く等々、子供を核にして親達も結び合うやり方もあると思

います。特に現在では、一軒の家庭で祖父母、両親、子供と言

うような三世代の人々が生活していることは少なく、また、兄弟姉妹の人数も少ない現在の家族構成であるので、数家族で、ある活動を実行したり、子供会などの地域団体などに積極的に子供が加わって活動したりすること

によって、子供はいろいろなことを学びます。また、近隣の老人や病人、障害を持つ子供などの家庭に対しても、お互いに交流を持つよう

近隣の子供への教育的配慮

例えは、親も本人も家の中に閉じこもりがちになります。どの子供も戸外で元気に活発に動き回りたいという欲求を持っているはず

です。その欲求がすべての子供に、かなえられるよう近隣の親達は、互いに協力し合うようにしなければなりません。また、病人などのいる家庭で子供の養育について、いろいろな問題や悩みを持っている場合もあると思います。あるいは、父親が仕事の都合で遠く離れていて母親と子供だけの家庭もあるでしょう。また、単親家

庭等もあるでしょう。都市化の進んだ現在、このような家庭が孤立し、不安定にならないように親同志が近づいてお互いに悩みや問題等について話し合い、相談し合い、ときには子供も連れて一緒に行事や見学に行くなど、

いろいろな協力が考えられます。自分の家の子供が使った積木など、おもちゃや絵本等が、子供の成長につれて不用になることもあります。それらを近隣の人々で必要とする人に使ってもら

うなどの交流もあるでしょう。自分の子供も、どこかで他の大人達の指導を目に見える形で、また目に見えない形で受けて、

これまで育ってきた、これからも育っていくと考えるべきです。それぞれの人が、近隣社会の「おじさん、おばさん」になっ

て、すべての子供の指導を分担することが、ますます必要になると

思います。

社会教育指導員 宇野克彰



⑤

服の手入れとしまい方

大切な湿気対策・防虫対策

10月は湿気が少ないため、衣類の手入れをするには、1年を通じて最も適した季節です。

たんすを丸ごと防虫加工

さて、防虫剤は衣類をしまうときに欠かせませんが、ここではたんすを丸ごと防虫加工する方法を紹介しましょう。ナイロンストッキングのつま先に、防虫剤を10個ほど入れ、ドライヤーの先に輪ゴムで取り付けます。防虫加工したいたんすに、そのドライヤーを「冷風」にした状態で入れます。10分もするとたんすに防虫剤の匂いがしみ込み、完全防虫加工されます。ただし、ここで注意しなければならぬことは、ドライヤーの風を必ず「冷風」にしておくことです。衣類は一に手入れをし、大切にいつまでも着たいものです。

